



# 歯学部附属病院

## 先端歯科診療センター

各診療科の専門医が集結して先進的な歯科治療を提供

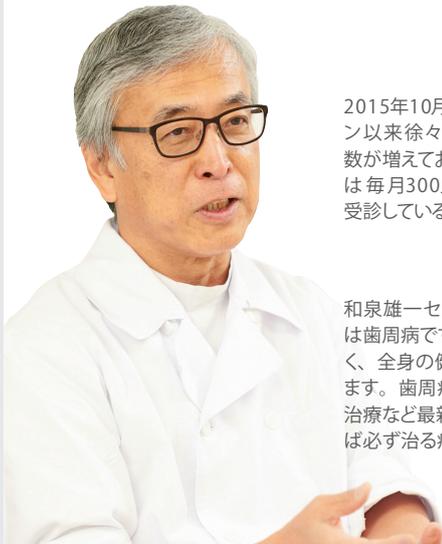


ゆったりとしたスペースが確保されたユニット。センターの診察室には、あらゆる治療で使う器具類が一通り常備されている。



### 診療科DATA

センター長	和泉雄一(歯周病外来・教授)
副センター長	水口俊介(義歯外来・教授)
主な専門治療	審美修復治療、審美歯冠修復治療、ホワイトニング、レーザー治療、コーンビームCTや顕微鏡による歯内治療、歯周組織再生治療、金属床義歯、アタッチメント義歯、インプラント治療、デジタルデンティストリー、オーラルリハビリテーション、限局矯正、口腔ケア



2015年10月のオープン以来徐々に受診者数が増えており、現在は毎月300人以上が受診している。

和泉雄一センター長 ◎「歯を失う原因の第1位は歯周病です。自分の歯が使えなくなるだけでなく、全身の健康にも大きなリスク因子となっています。歯周病は、歯周組織再生治療やレーザー治療など最新の治療を駆使してしっかり治療すれば必ず治る病気です」



左から、吉田センター外来医長、水口副センター長、足達歯科衛生保健部長、和泉センター長。この他、各診療科の教授、准教授、講師、助教以上の専門医全員がセンターの診療に携わる。

**先**端歯科診療センターは、高度で先進的な歯科治療を効率的に提供することを目的に2015年10月に開設された。各専門外来の専門医や歯科衛生士がセンターで診療にあたり、互いに連携を図りながら、診断、治療、メンテナンスまでを包括的に行う。

歯周病の専門医である和泉雄一センター長は、診療科の枠を超えて一貫した治療ができることは患者と歯科医師双方にとって快適な治療に繋がると話す。

「日本人の40歳以上の歯周病罹患率は80%以上だとされており、歯の欠損

部位があって、インプラントや義歯を入れる場合でも先に歯周病の治療をすることが少なくありません。そのため、次の診療科を受診するまでの期間に症状が進行してしまうこともあります。その点、ここではどの診療も同じ診察室で受けられるので患者さんの負担も少ないですし、歯科医師も各専門医との調整や情報伝達がしやすい。顔を見合わせて治療の引き継ぎができる安心感があります」(和泉センター長)

各診療科で行っている最先端の治療を積極的に取り入れているため、全て自由診療になる。将来的には

同センターを治験や臨床研究の拠点とする計画もあるという。最先端の器具を1箇所にとまとめた小手術用の部屋も準備中だ。

「これまでの歯学部附属病院は、専門外来の集合体として存在してきたため、包括的な治療をする上での難しさがありました。しかし、センター内ならば複数の科の歯科医師でチーム医療を進めやすくなります。いずれは、センターが病院の中心となり各専門外来が周囲を固めるような、新しい大学病院の体制を整えていければと考えています」(水口俊介副センター長)

B